

科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

自ら考え、問題解決ができる力の向上を目指す

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テストで、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が極端に低い。</li> <li>定期テストにおいて、中間層から下位層が多い傾向にある。基礎基本の定着に課題がある生徒が多くいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み上げ計算をペア学習で実施している。</li> <li>学びあい活動を充実させている。自分の解法を表現したり、友達の解法を聞いたりする機会を増やし、さらに読解の練習を増やしていく。</li> <li>家庭学習の際に、繰り返し学習ができるように問題集を活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜</li> <li>通年</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テストで、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。</li> <li>定期テストにおいて、上位層も一定数いるが、中間層から下位層がやや多い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び合いを取り入れ主体的に取り組ませていく。繰り返しの小問練習により、下位層を減らしていく。</li> <li>習熟度別少人数授業の充実を図り、理解度に応じた課題に取り組ませ、上位層を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜</li> <li>通年</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テストで、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が極端に低い。</li> <li>定期テストにおいて、習熟度が二極化している傾向がある。基礎基本の定着に課題がある生徒が多くいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>応用問題に対して、グループ活動や教え合いを取り入れ主体的に取り組ませていく。</li> <li>習熟度別少人数授業の充実を図り、理解度に応じた課題に取り組ませていくことで、上位層を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜</li> <li>通年</li> </ul>	

■主体的・対話的で深い学びに関連して

1年 }  
2年 } 課題提示の工夫、学びあい学習の充実  
3年 }

■1人1台端末の活用に関連して

1年 }  
2年 } 例題の解説や反復練習で活用  
3年 }